

現代社会論
—若者論から考える—

担当者氏名：狭間 諒多朗
(研究室番号：Q5010)

1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

現代社会の解明は政策を考える際に必要不可欠な作業です。本プロジェクトでは、若者のライフスタイルやライフコースを社会的に分析することで、この社会の一端を明らかにしていきます。これからの社会を生き、創っていく若者を研究することで、今の社会だけでなく、これからの社会について考えることができます。また、様々な社会問題について、若者論や社会学の視点から分析することも目指します。

皆さん自身が若者ということで、身近なテーマではありますが、近年では若者の中の差異（階層や居住地域など）に注目する必要性が指摘されています。皆さんとは異なる、さまざまな状況に置かれた若者にも目を配ることでより深い社会理解を目指しましょう。

また、若者論は「最近の若者は〇〇」と印象論で語られるものが多い分野でもあります。本プロジェクトではそのような印象論ではなく、根拠に基づく議論を重視します。したがって、社会調査やデータ分析にも力点を置き、研究を進めていきます。

2. プロジェクト研究の進め方

プロジェクト研究Ⅰ

若者論や社会学の現状を学ぶため、比較的新しい文献を輪読します。毎回報告担当者を決め、担当者の報告をもとに議論を行います。報告担当者でないメンバーも文献を事前に読み、必ず議論に参加してください。

プロジェクト研究Ⅱ・Ⅲ

社会調査を実施し、その結果をもとに研究を行います。基本的にはアンケート調査を予定していますが、メンバーの関心に応じて質的調査を行う場合もあります。調査項目の選定や実査の方法などについては、メンバーの議論によって決めていきます。実査が終わったあと、得られたデータを適切に分析し、各自レポートを作成します（ミニ卒論）。

プロジェクト研究Ⅳ・Ⅴ

卒業論文のために各自でリサーチクエストを立て、研究を進めていきます。必要に応じて社会調査を実施します。また、既存データの2次分析を行う場合もあります。毎回、報告担当者を決め、担当者は調査の状況やデータ分析の結果について報告します。

プロジェクト研究Ⅵ・Ⅶ

各自でデータをまとめ、卒業論文を執筆します。毎回、報告担当者を決め、担当者は卒業論文の進捗を報告します。

3. プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

本プロジェクトを希望する学生は、原則、3年次のQ2に開講される総合演習B（担当：狭間）を履修してください。やむをえない理由で履修が難しい場合は相談してください。

また、本プロジェクトを希望する場合には、いずれのコースを履修しても構いません。

なお、社会学的な視点や社会調査をもとにした議論に力点を置くため、以下の科目を履修することが望ましいです。

社会学概論、社会調査法。

4. プロジェクト研究開始までの準備

日頃から、さまざまな社会現象に関心を持ち、ニュースや情報番組などをチェックするようにしてください。

「〇〇な若者たち」のような若者に関する本や、「〇〇の社会学」といった社会学の本がたくさんありますので、そのような本を最低1冊は読んでおいてください。

5. その他

① 身近なテーマを扱うため、気を抜くといい加減な議論になってしまいがちです。そのため、本プロジェクトでは、テーマは身近であっても、きちんと根拠に基づいた科学的な議論をするように強くメンバーに求めます。身近なテーマ＝簡単ではないということを意識してください。

② 世の中で言われていることや常識に対して疑問を持ち、物事を「ななめ」から見られる人が本プロジェクトには向いています。

③ 若者論を中心に学んでいきますが、社会学全般に関心がある人も歓迎します。「社会学A／B」「社会学概論」「社会と文明」などを受講して社会学に興味を持った人も歓迎します。

④ 以下に、研究テーマの例を紹介します。テーマはとても幅広いですが、社会学的に分析することや、社会調査をもとに議論することを徹底しています。

「男女別にみる若者の推し活と生活満足度」

「若者はなぜ音楽を聴くのか」

「映画のポリコレ化と若者」

「ゲームは若者を幸福にするのか」

「「BeReal.」と若者」

「VRのメタバース空間におけるサードプレイス性」

「失敗したくない若者と恋愛観」

「実家暮らしとその社会的地位」

「若者と女性の幸せとはなにか：貧困率と幸福度からみる矛盾」

「若者の投票率向上に向けた選挙教育への提言」

「現代の若者の不登校」

「ルッキズムがはびこる現代の問題」

「名古屋志向の若者たち」

「若者による地域活性化」

6. 選考方法

成績、志望理由書、面接から総合的に選考します。